

木のぬくもりで豊かな心



わんどの「木育」

～初めて「木育」にとりくむ皆さんへ～

子どもたちのための 「木育」手引書



「木育（もくいく）」について

「木育」とは、森林資源に恵まれた青森県において、子どもの頃から木を取り入れた生活の中で、木と森に親しみ、人と、木や森のかかわり、森林づくりの大切さを考えられる豊かな心を育む活動です。

10年ほど前に北海道で生まれた「木育」という言葉は様々な活動・考え方を含むもので、森林・林業だけではなく保育・子育て支援などの幅広い分野で、その対象は子どもからお年寄り、また、活動場所は室内から森まで、と「誰でも」「どこでも」活動できるものです。

この手引書は、その入り口となる就学前のお子さんを対象に、初めて「木育」活動に取り組む指導者の皆さんに知っておいてもらいたいポイントなどをまとめたものです。

目次

I	この手引書について	1
1	はじめに	1
2	この手引書の使い方	2
II	木育の進め方	3
1	「木育」って楽しい!! (活動事例と参加された方の声)	3
2	企画から実施までの流れ	5
III	活動モデルごとの実施の流れ	6
1	モデル1【木製玩具での遊び体験】	7
2	モデル2【身近な植物観察】	11
3	モデル3【木を使ったものづくり】	18
4	モデル4【1～3の組み合わせ例】	22
IV	活動を発展させていくために	23
V	資料編	24
1	知ってほしい木育のこと	24
2	活動に使える木製玩具や絵本	25
3	知ってほしい木や森のこと	28
4	木育活動を行っている施設・団体	30
5	参考図書等	31
6	「わんどの木育」普及推進事業について	32

I この手引書について

1 はじめに

青森県中南地域県民局では、平成 26 年度と平成 27 年度において、「わんどの木育」普及推進事業を実施し、主に未就学児を対象として木製玩具を活用した木育を実施しました。

平成 27 年度には、年間を通じて木育活動に取り組む「木育モデル園」を選定し、(1) 木製玩具での遊び体験、(2) 身近な植物観察、(3) 木を使ったものづくり、の 3 つの内容を柱として活動しました。

これらの活動により、子ども達には木のおもちゃ、木や森などに触れ、理解するための体験の場が、大人には「木育」の大切さを理解していただくきっかけができたのではないかと考えています。

また、これから木育を始める方に参考にさせていただきたく、2 か年の木育モデル園での活動事例などを基に、活動の進め方やポイントをこの手引書としてまとめました。

今後は、この手引書を利用していただき、より多くの保育園や幼稚園、御家庭などで、子ども達と楽しく「木」に触れる活動から始めていただき、木育の取組が地域に定着し、その輪がどんどん地域に広がっていけば幸いです。

また、木育モデル園での講師及び手引書をまとめるために、多大なる御協力をいただいた「特定非営利活動法人 弘前子どもコミュニティ・ぴーぷる」の清野真由美氏、八柳角弥氏には厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

中南地域県民局地域農林水産部長

西谷 真一郎

「わんどの木育」シンボルマークについて

木を抱え、にっこりほほ笑む人をイメージしています。

手は「わんど」の「W」と「木育」の「M」です。

今後も「木育」のシンボルマークとして使用していきますので、このマークを見かけたら、「木」のこと、「木育」のことを考えてみませんか。

※「わんど」は津軽地方の方言で「わたしたちの」のことです。

木のめぐもりで豊かな心



わんどの「木育」

2 この手引書の使い方

(1) 対象とする指導者

未就学児に対して、これから木育を始める方を対象とした内容としています。

また、既に活動している方や児童生徒や大人を対象とする「木育」を実施する方には、本書を活用して御自身の活動を充実・発展させていただければ幸いです。

(2) 活動の場

本手引書で実施している「木育」は、子ども達が木や森に親しむきっかけとして木製玩具での遊びを体験し、その後、身近な植物などの自然観察や木を使ったものづくりへと発展する内容で、活動場所は室内及び身近な公園などを想定しています。

(3) 楽しく木育

対象は未就学児のため、楽しく遊びながら体験したり気づいたりする内容としています。

木製玩具での遊びは0歳～5歳位、植物観察や木を使ったものづくりは3歳～5歳位を想定した内容ですが、それ以上の年齢で実施する場合はアレンジを加えれば実施可能です。

(4) 活動内容の選択

木製玩具での遊び～自然観察～木を使ったものづくり、の全ての内容を実施することにより、子ども達にはより豊かな体験を提供することができると考えますが、指導者や季節などの活動条件に応じて、実施する内容を企画・検討してみてください。



Ⅱ 木育の進め方

1 「木育」って楽しい!!

平成 26、27 年度の「わんどの木育」普及推進事業の取組では、「木」に触れる活動をしなが、たくさん子ども達や大人の笑顔に出会うことができました。

「木育」は、「木」の持つ魅力、面白さ、効果を楽しく感じる事ができる活動です。
どんな活動ができるのか、参加された方の感想とあわせて御紹介していきます。

(1) 木製玩具での遊び体験 -五感を活用し、楽しみながら木に触れます-



積み上げたり、崩したり、



叩いたり、見つめたり、



音や香りを体験し、体を使って・・・

木となかよしになったよ!!

(2) 身近な植物観察 -おもちゃになる前の「木」に触れます-



お顔があるね



葉っぱの形って色々あるね



季節で色が変わるね

木って面白いね!!

自分で作れた!!

(3) 木を使ったものづくり

- 「木」から生まれる素材で「ものづくり」を体験します -



初めて使うノコギリ



自分でぬれるってば



これスギの木なんだよ

(4) 参加された方の感想

幼稚園・保育園で実施した「木製玩具での遊び体験」にはたくさんの保護者の参加もありました。参加された保護者の感想を御紹介します。

★「木製玩具」に対する声

- ・木目が優しい、色の違い、質感、手触り、香り、ぬくもり、重さ、音などについて感じることができる。
- ・安全・安心、自然、長く使える、使えば使うほど味が出る。
- ・やわらかいイメージ、落ち着く、五感の発達に良い。
- ・森林浴のようだった、肌と体全体で感じることができた。
- ・子どもの表情が穏やかだった。
- ・子どもとのコミュニケーションがとりやすい。
- ・自然や環境を考えるきっかけとして欲しい。

★「木や森」、「木育」に対する声

- ・「触れ合う」、「楽しむ」が根底にある。
- ・1本の木からいろいろなおもちゃが作れることに感動した。
- ・様々な感覚を味わえる、五感を刺激して子どもが育つために必要。
- ・子どもが良い表情になり、自分もリラックスできたので、この効果を日常に取り入れるため「木育」をしたい。
- ・自分が子どもの頃には自然に触れていた木の奥深さを実感した。

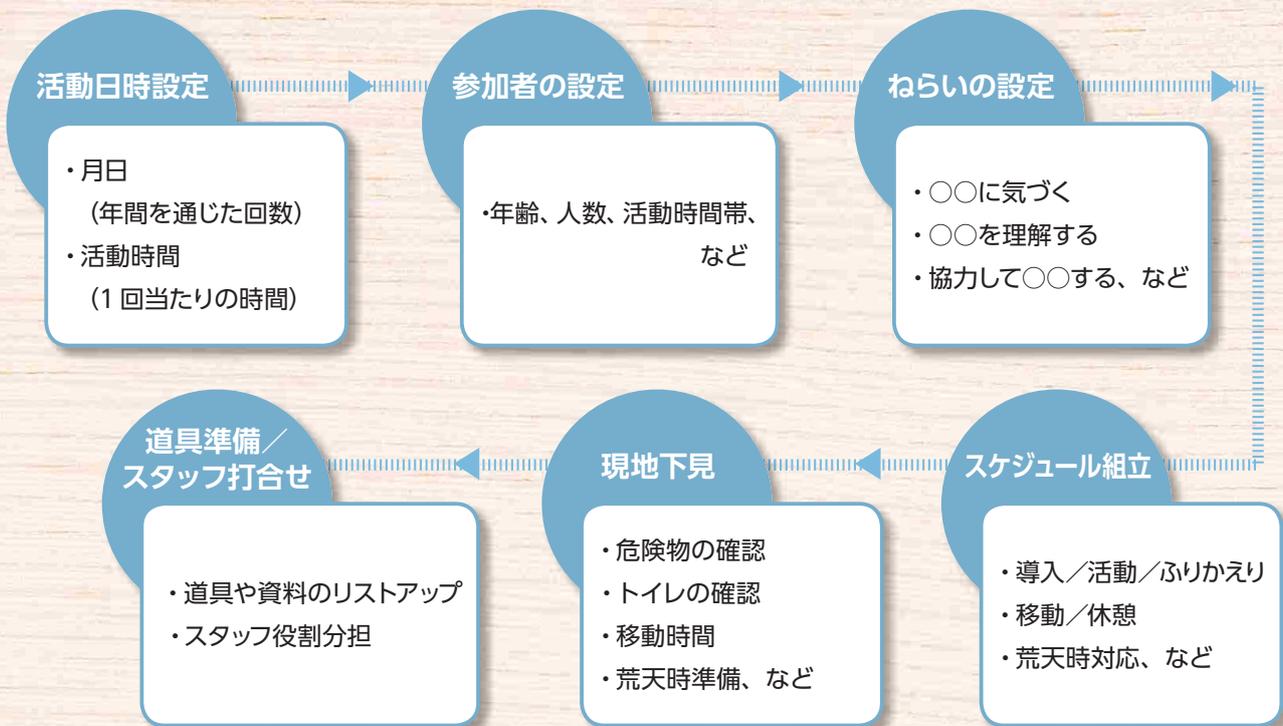
(5) 活動した園の感想など

- ・子ども達が木に触れ、感じ、遊びを発展させている姿が印象的だった。
- ・年長児がとても興味を示したので、木が育ち遊具・玩具に変化していくことについても学ばせたい。
- ・園にある木製玩具を改めて活用したい。
- ・木製玩具の購入を検討したい。(木育体験で活用した玩具を購入された園がありました)
- ・園児だけでなく職員も木材の良さを感じることができた。
- ・季節が変わったら(植物観察の場所に)また行ってみたい。
- ・(ものづくりで)子ども達が予想以上に集中して取り組んでいた。
- ・今後も継続して「木育」を実施したい。

2 企画から実施までの流れ

下記を参考に、『準備』→『実施』→『評価』の順で行っていきましょう。

(1) 準備



(2) 実施

- ・何よりも安全を心がけましょう。
- ・設定したねらいどおりに伝わらないこともあります。子ども達が素直に感じたことを大切にすることにしましょう。
- ・どんなことを感じたか声がけて聞き出すなどして受け止めましょう。
- ・印象に残ったことや楽しかったことを全員でふりかえりましょう。

(3) 評価 (ふりかえり)

- ・良かったところや改善点について、主催者や指導者自身が評価を行いましょう。
- ・活動記録を残しましょう。(日時/内容/スケジュール/スタッフ役割/ふりかえり結果、など)

Ⅲ 活動モデルごとの実施の流れ

この手引書では、「木育」を始めようと検討している皆さんが、具体的イメージをつかめるよう、テーマや内容などにより活動モデルを4つ取り上げ、準備から実施にいたるまでの流れを解説しています。

活動モデルの作成に当たっては、平成27年度に実際に「木育モデル園」として活動した5保育園を参考に構成しています。

●各モデルのテーマと内容

区分	テーマ	内容
モデル1	木となかよしになろう	木製玩具での遊び体験
モデル2	よくみてみよう	身近な植物観察
モデル3	葉や木の実を使って作ってみよう	木を使ったものづくり
モデル4	モデル1～3の組み合わせ	

※各モデル中での年齢は、「年度始めで満3歳の園児」を「3歳」と表記しています。

★活動モデルの作成にあたって

平成27年度に、下記の5保育園を「木育モデル園」として選定し、活動内容の検討、当日の実施、打合せや意見交換などに御協力いただきました。

保護者の方の御理解と御協力もいただき、5園15回の活動結果を基に活動モデルを作成することができました。本当にありがとうございました。

木育モデル園

- ・石川保育園（弘前市）
- ・城西保育園（弘前市）
- ・城東保育園（弘前市）
- ・たけみ保育園（黒石市）
- ・ふたば保育園（弘前市）



木製玩具「アートパネル」で作成し、活動時に使用したパネル



【写真の提供について】

木育モデル園での活動写真については、デルタ編集チームの成田興平氏から、たくさんの写真を御提供いただいたことを感謝申し上げます。

モデル1【木製玩具での遊び体験】

1 活動概要

テーマ	木となかよしになろう	
内容	木製玩具での遊び体験	
対象	保育園児など	0歳～5歳
活動時間	1時間～2時間	
活動場所	室内	遊戯室など広い場所

活動した園

石川保育園
城西保育園
城東保育園
たけみ保育園
ふたば保育園

2 準備

ねらい

- ・五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）を活用し、楽しみながら「木」に触れる
- ・植物（自然観察）やものづくりへのきっかけ作り

当日スケジュールの例

(活動時間：9：30～11：00)

■実施日時

■場所 保育園ホール

■対象 園児40名（3歳～5歳）

■スタッフ 保育士2名、指導者2名、
県民局2名

■スケジュール

- 8：50 遊具・玩具設置、
スタッフ打合せ
- 9：30 はじまりのあいさつ
導入 絵本読み聞かせ、
おもちゃの紹介
- 9：45 **自由遊び開始**
- 10：40 **自由遊び終了**
積み木でできた大きな作品を
皆で崩す
- 10：45 **お片付け**
- 10：55 **ふりかえり**
- 11：00 終了
- 11：30 遊具・玩具撤収

準備

■スタッフ

- ・遊具・玩具の設置及び撤収には、慣れた大人3～4名で30分～1時間必要。



■玩具使用予約

- ・日程が決まり次第、県民局に予約・使用申込みする。



3 実施

導入【玩具への興味を持たせるきっかけ作り】



絵本「さんびきのやぎのがらがらどん」と橋を作る玩具を使った読み聞かせ



玩具紹介【木琴】
- 樹種による色や音の違いを感じる



青森県の木ヒバ - ヒバってこんな木、こんな香り

自由遊び【五感で感じ楽しむ時間】



導入で使われた絵本を再現



いい音がするね



この魚いい香り

お片付け



遊ぶだけではなく片付けもセットで実施

ふりかえり【活動を共有する時間】



遊んだ後にもう一度お話をして体験を理解につなげる

準備物品

■玩具一式

- ・使用例は次頁のとおり。
- ・玩具は1種類につき複数個ある方が望ましい。
- ・年齢に応じた玩具使用に配慮する。

■ロールマット（粘着テープ・掃除機などの掃除道具）

- ・マットを使用すると玩具が滑らず、また、床の傷も防げる。

■テーブル

- ・玩具は床に直置きしない方が遊び中に乱雑にならない。幼児用の食事テーブル程度の高さのものを用意。

■イス

- ・下駄に乗る際、あると便利。

■絵本（読み聞かせ用台など）

指導のポイント

■導入

- ・使用する絵本等は、木や森・動植物などに関する内容を選ぶことにより、木製玩具への興味につなげることができる。
- ・年齢に応じてお話しや活動時間を短く（又は省略）する。

■玩具の使用

- ・遊び方・特性に詳しい大人がいることが望ましい。各玩具の特性や声かけの例については、「木製玩具の紹介」を参照。
- ・最初に、玩具を「投げない、踏まない、乱暴に扱わない」という説明をする。
- ・活動中には、安全面に配慮し（低年齢児がいる場合は誤飲も注意）、また、随時玩具を整理・整頓する。

■積み木を「崩す」

- ・終了時には、「うづくり積み木（P.25の紹介を参照）」で大きな作品ができているので、皆で崩し方を決めて実行する（「壊す」ではなく「崩す」「片付ける」という表現の方が乱暴に感じない）。

■ふりかえり

- ・遊んでいて、気づいたこと・感じたことをお話ししてもらう（または指導者が活動中に子ども達から聞いた内容を紹介する）。
- ・（大人に対しては）身近な木や木製品に注目、想像、話題にすることから「木育」を始められることを伝える。保護者参加の場合は説明資料配布やアンケート実施なども検討。

参考となる活動のアレンジなど

■導入

- ・既存の資料から、紙芝居や、パネルシアターを作成し使用しても効果的。
- ・写真やイラストのほか枝や実などの現物を見せる（触る、嗅ぐ）方がイメージしやすい。
- ・保護者や保育士等にも遊びを体験してもらおうと、より楽しい雰囲気になる。



パネルシアターの例



スギの積み木とパネルで説明

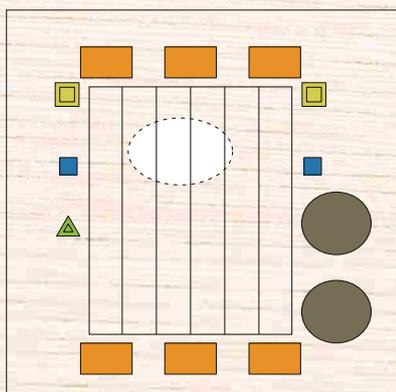


棒にひもを巻き取る手作り玩具（参加していた保護者にも体験してもらいました）

玩具使用例

配置

10m四方の例



-   A
-  B
-  C
-  D
-  E



上：D 設置例
下：C 設置例

A うづくり積み木

箱から出して、作りかけの状態にしておくと、子ども達が続けて積んでいく。



B 床に置いて遊ぶ玩具

ハンマートイやプルトイ、魚つりなど



C ゲタ

(乗って遊ぶ玩具)

イスを設置してスペースを確保するとよい(乗り始めの補助と散らかり防止のため、ある程度決まった場所で遊ぶよう促す)。



D テーブルに置いて遊ぶ玩具

パズル、木琴、積み木、けん玉など、座っても立っても使えるもの



E 遊具

大型のクーゲルバーンや立てかけると見やすいパネル



モデル2【身近な植物観察】

1 活動概要

テーマ	よくみてみよう	
内容	身近な植物観察	
対象	保育園児など	3歳～5歳
活動時間	1時間半～2時間	
活動場所	野外	園庭、公園、神社など

活動した園

石川保育園
城西保育園
たけみ保育園
ふたば保育園

2 準備

ねらい

- ・木や木材などを身近に感じるきっかけの一つとして、木材になる前の生きた「木」に触れる。
- ・木を始めとする植物には、様々な色、形、特徴、匂いがあることに気づく。

当日スケジュールの例

(3歳児 16名、活動時間 1時間半程度)

- 実施日時 10月上旬
- 場所 保育園ホール→公園
- 対象 園児 16名 (3歳児 1クラス)
- スタッフ 保育士 5名、指導者 2名、
県民局 2名

■スケジュール

- 9:00 園集合・準備・打合せ
- 9:30 はじまりのあいさつ
導入 絵本読み聞かせ
- 9:45 公園へ移動
- 9:55 公園到着・植物観察

※①～④の内容のうち3種類を実施
(1種類には15分～20分程度要する)

- ①グループづくり
 - ②ズームアップを探せ
 - ③めだまっち
 - ④葉っぱあつめ
- 10:40 ふりかえり
 - 10:55 園へ移動
 - 11:05 保育園到着

準備

■現地下見

- ・移動中及び活動場所に危険なもの、動植物がないか確認 (ハチの巣、かぶれる植物、トゲのある植物など)
- ・経路及び子どもの足での移動時間
- ・体験スペースやトイレの場所を確認
- ・どんな木 (動植物) を見られるか
- ・ズームアップ写真の撮影
- ・荒天時に、樹木等の写真撮影や葉等の採取



■スタッフ

- ・グループ毎に活動するため、1グループ (4～6名) にスタッフ1～2名を配置する。

3 実施

導入【きっかけ作り、自然に目を向ける時間】



大型絵本の例



パネルシアターの例



テーマをお話し

植物観察【五感で感じる時間、学びや体験の時間】

①グループづくり（リラックスして体験に入れるよう、また、仲間との連携を作る活動）

葉や木の実などが描かれた「秘密のカード」をグループの人数分に切り分けておく。1人に1枚渡した「秘密のカード」を合わせるとグループができる。



カードを折りたたんだまま
1人ずつに渡す



同じ絵（グループ）の
仲間を探す



絵が完成すると
グループができる

②ズームアップを探せ（視点を変えることにより様々な気づきを引き出す活動）

※①を実施しない場合は事前にグループ分けをしておく。

活動場所にある植物などを大きく撮影しておき、1グループに1種類渡す。

渡されたズームアップ写真と同じものを探し、見つけたら指導者に教える。



木かな？草かな？



これじゃない？！



正解だ！

植物観察（その2）【五感で感じる時間、学びや体験の時間】

③めだまっち（擬人化したり楽しみながら想像する活動）

※①を実施しない場合は事前にグループ分けをしておく。

各グループに目玉用紙を渡し、目玉を書く。ガムテープなどで顔に見立てる場所に貼り付ける。
全グループ貼ったら、皆でどんな顔か確認する。



目玉を書いて・・・



貼り付けると・・・



面白い！

④葉っぱあつめ（色・形・匂い・手ざわりの違い、季節の変化などを感じる活動）

※①を実施しない場合は事前にグループ分けをしておく。

活動場所に落ちている枝や葉、実などを拾いシートに並べて虫眼鏡で観察。好きな模様を作ったりしてもよい。

観察後は、「記念に持ち帰ってお家でお話ししてみよう」などと促してもよいし、持ち帰った葉を新聞紙に挟み重しをして平らにしておく、ものづくりなどに活用できる。



季節によって色々な色がある



虫眼鏡で観察



葉っぱの裏にも模様があった

ふりかえり【活動を共有する時間】

・集めた葉っぱについて、気に入っているところや面白いと思ったことを発表する。活動全体で楽しかったことを話してもよい。



小さな子のグループでは先生が代表で、大きな子は各自で発表してみる

指導のポイントなど

■導入

- ・使用する絵本等は、木や森・動植物などに関する内容や天候・季節にあった内容を選ぶことにより、活動への興味・関心を高める。
- ・テーマを紙などで表示して視覚に訴える。

■グループづくり

- ・「秘密のカード」は年齢・人数に応じて難易度（グループの色分けや模様）を変えたり、季節やクラス名に関する模様としてもよい。
- ・活動中に見られる樹木について、遊んだ玩具の中に該当するものがあれば「あのおもちゃはこの木だね」のように伝えてもよい。

■スタッフの配置・安全管理など

- ・1グループ（4～6名）にスタッフ1～2名の配置が望ましいが、年齢や活動場所の条件に応じて調整する。
- ・危険な植物などはスタッフで共有する。また、必ずしも取り除く必要はなく、活動中に「危険なもの」として説明をする方がよい。

■ズームアップを探せ

- ・早く見つける競争になりがちだが、普段とは違う距離・角度で注意して見ることが目的なので、各グループの大人がうまく誘導する。

■めだまっち

- ・擬人化したり、楽しみながら想像する目的なので、「〇〇に見える」という意見には共感するようにする。
- ・あらかじめ目玉などを書いたカードを渡してもよいし、ヒモを巻いてリボンなどに見立てても楽しい。

■葉っぱあつめ・観察

- ・落ちているものを拾うように伝える。生きている葉や枝を採取する場合は、所有者等の了解を得た上で、指導者が「最低限の量をいただく」という説明をする。
- ・季節により集められるものが変わるため、季節毎に実施しても楽しい。
- ・「木」からのつながりを踏まえ、また、動かないことや四季を通じて見られ観察しやすい題材であることから、植物観察を主たる内容としているが、動植物全般に詳しい指導者がいる場合は、植物に限定せず実施できる。

■移動等

- ・屋外の活動の場合は、身支度など出発前後の時間も考慮した時間配分とする。
- ・往復も大事な体験。季節によって、道沿いにある植物や音（鳥の声など）、景色が変わることを伝えながら進むのも楽しい。
- ・神社では皆でお参りをすることで、文化や作法についても体験する。

■その他

「その季節ならではの」活動や子ども達への語りかけのヒントとして、「季節毎の活動」や「木となかよくなるお話し」を参考として、年齢に応じて、内容を変えて実施できる。



準備物品

■準備品

- ・絵本（パネルシアター等）
- ・テーマを書いた紙など
- ・秘密のカード（グループ分）
- ・ズームアップ写真（グループ分）
- ・目玉用紙（グループ分）
- ・マジック、ガムテープ
- ・黒模造紙（またはブルーシートなど）

- ・虫眼鏡（人数分またはグループ分）、レジ袋適宜
- ・荒天時に、樹木等の写真撮影や葉等の採取

※参考経費

カード、模造紙、レジ袋等
・・・約1,500円

※絵本、虫眼鏡は借用

参考となる活動のアレンジなど（その1）

①荒天時の対応例

- ・実施月日が決まっています、荒天時でも活動したい場合は、室内でグループ作りや葉っぱあつめなどを実施し、玩具に使われている木についてのお話や玩具遊びの時間としてもよい。
- ・葉っぱあつめ
事前に採取しておいた葉などをグループ毎に選び観察と発表を行う。使用する写真や葉などの材料は、「〇〇公園（活動予定場所）にあった木（葉）だよ」と伝える。

②季節毎の活動例

季節毎の活動例【こもれびキャッチ】

- ・白い紙で木漏れ日を受け止め、葉っぱの形などを映す。
- ・日差しがあり、太陽高度が高い時間帯の活動が望ましい。



とがった葉



遠くにある葉の形が分かる



白黒で形がはっきりする

●準備・ポイントなど

- ・上質紙などの白い紙（人数分）を準備する。
- ・木により葉の形が違うこと、手の届かないところにある葉の形がはっきり分かること、紙の角度により影の形が変わることなど、を伝える。

季節毎の活動例【春（夏）と秋（冬）の違いをみつけよう】

- ・春（夏）に訪れた活動場所を、秋（冬）など季節を変えて訪れてみる。
- ・紅葉、葉を落とす木・落とさない木、冬芽の観察、葉・花・実の違いなどについて感じるができる。



夏と秋（紅葉）の違いを比べる



葉や松ぼっくりは通年で見つけれれる

●準備・ポイントなど

- ・以前に訪れた時の写真や採取しておいた葉・実などを見せ説明してもよい。
- ・室内や荒天時にも実施可能。

参考となる活動のアレンジなど（その2）

季節毎の活動例【木は暖かい】

- ・木と鉄、プラスチック、毛糸などの素材により体感温度が異なることを感じる。
- ・寒い季節限定の活動。



比べるものを並べる



木はどうか



おがくずの香りは寒いと変わるのかな

●準備・ポイントなど

- ・比べる素材は、直前まで寒い場所に置く。
- ・素材により使い方が違うことや樹種による違いを伝えてもよい。木以外を否定しないように進める。

③木となかよくなるお話し例

木となかよくなるお話し例【木をまねしてみよう】

- ・樹木を人間の体に見立て、体をたくさん動かしてまねしてみる。
- ・足のような根、足や体のような幹、腕のような枝、手や頭のような葉、に見えることを説明し、楽しみながら木に親しむ。
- ・体をたくさん使ってまねすることや、木にも1本1本個性があるということ伝える。



まねする前によく見てみよう



スギの切り株に生えていた
子どものスギを観察

木となかよくなるお話し例【子どもの木と大人の木】

- ・同じ種類の木で、大きさが違うものを観察。
- ・木は成長するのに時間がかかること、長生きする生き物であることを伝える。
- ・大きな木の根元や周辺には比較的小さな木を見つけやすい。
- ・木の種類や大きさが分かる人がいるとよい。

木となかよくなるお話し例【見上げてみよう】

- ・大きな木を根元から上まで見上げ、大きさを感じる。
- ・木は大きくなる、長生きする生き物であることを伝える。
- ・公園や神社には大きな木が多いので、樹高・幹周り・樹齢などを調べておき説明したり、木と自分たちの年齢を比べてもよい。
- ・木材となってからも長く生きる（使える）ことを伝えてもよい。



看板があれば参考にしましょう

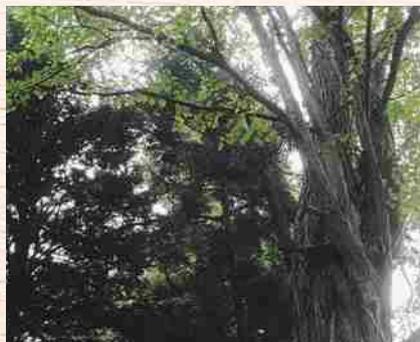
参考となる活動のアレンジなど（その3）

木となかよくなるお話しの例【香りを体験する】

- ・イチョウ、カツラは、紅葉（黄葉）の時期限定での体験。イチョウの実（ぎんなん）は臭く、黄葉したカツラの葉からは甘い香りがする。
- ・カヤは通年で体験可能。葉をちぎると柑橘系の香りがする。葉がとがっていて痛いため、大人がハサミなどで採取するとよい。



臭いだけで大歓声（イチョウ）



丸い葉が黄葉するころ香りが強くなる（カツラ）



裏に白い筋があるのが特徴（カヤ）

木となかよくなるお話しの例【秋をみつける】

- ・秋には紅葉（紅葉）や落葉が進み、どんぐりやまつぼっくりも見られる。
- ・植物も冬に向けて支度をするので、紅葉の仕組みなどを伝えてもよい。
- ・葉っぱを集めて、新聞紙に挟み段ボールなどで2、3日重しをして平らにしておくと、ものづくりの材料として活用できる。



秋にみられる動植物など

モデル3【木を使ったものづくり】

1 活動概要

テーマ	葉や木の実を使って作ってみよう	
内容	木を使ったものづくり	
対象	保育園児など	3歳～5歳（保護者または大人の参加が必要）
活動時間	1時間半前後	
活動場所	室内	保育室、遊戯室など

活動した園

石川保育園
城東保育園
たけみ保育園
ふたば保育園

2 準備

ねらい

- ・樹木から様々な色・形の素材が生まれ、ものづくりに活用できることを体験する。
- ・手を動かす、道具を使う体験をする。

当日スケジュールの例

テーマ：落ち葉のスタンドグラスを作ろう
(3歳児16名+保護者、活動時間1時間)

- 場所 保育園ホール
- 対象 園児16名(3歳児1クラス)
- スタッフ 保育士2名、指導者2名、
県民局2名
- スケジュール
9:00 園集合・準備・打合せ
9:30 はじまりのあいさつ
導入 絵本読み聞かせ
9:40 ものづくり 開始
①テーマ説明
②作るものをデザイン
③貼り付け、装飾
10:30 ふりかえり
10:40 終了

準備

■準備品

- ・絵本
- ・プラスチック板(人数分)
- ・ベース
- ※角材を適当な長さに切りプラスチック板が入る切り込みを入れる(人数分×2ヶ)
- ・木工用ボンド(人数分)
- ・トレイ(材料・道具を入れ机に設置)
- ・マスキングテープ(適宜)
- ・グルーガン、グルースティック、ドラムコード
- ・はさみ(人数分)
- ・落ち葉、木の実、かぼちゃの種など
- ※集めた葉っぱは、新聞紙などに挟み開いた段ボールを乗せておくと平らになって扱いやすい。
- ※かぼちゃの種などは乾かしておく。
- ※どんぐりは虫が入っていることがあるので必要であれば煮沸しておく。



準備品の例

3 実施

導入【きっかけ作り】



材料についてお話し
【皆で公園から拾ったんだよね】



絵本読み聞かせ

ものづくり【手を動かし創造する時間】

①テーマ説明

見本を示し、大まかな流れを説明する。



テーマをお話し



作るものの説明



見本

②作るものをデザイン

マスキングテープで縁を飾りつけ（傷つき防止も兼ねる）する。

使う葉などを各自で選び、はさみで切り形を整えながら、プラスチック板に仮置きしてみる。



どれにしようかな・・・



こんな感じかな？



この葉っぱ知ってる？

ものづくり（その2）【手を動かし創造する時間】

③貼り付け、装飾

木工用ボンドやグルーガンを使いプラスチック板に葉などを貼り付けていく。
立てて置くためのベースにも装飾してよい。



危なくなければ自由に作業させましょう



難しければ大人がお手伝い



確認しながら仕上げ

ふりかえり【活動を共有する時間】



工夫したところを教えてください



光にかざすととてもきれい



素敵な作品ができました

指導のポイントなど

■導入

- ・使用する絵本等は、木や森・動植物などに関する内容や天候・季節にあった内容を選ぶことにより、活動への興味・関心を高める。
- ・植物観察で集めた葉っぱの場合は、集めた場所や季節など以前の活動をおさらいしてもよい。
- ・テーマを紙などで表示して視覚に訴える。

■実施

- ・子ども1人に大人1人がつくようにするため、保護者参観を活用する。
- ・形・色を見て、各自の自由な発想で貼り付けることを説明。
- ・汚れても曲がっても失敗しても子どもの自由な発想に任せましょう。
- ・厚みのあるものやでこぼこしている材料を貼り付ける場合はグルーガンを使ってもよい。グルーガンは熱くなり危険なので、冷めるまで触らないなど使い方の説明をし、必ず大人が使うこととする。

■ふりかえり

- ・光にかざすと、重なった部分や葉脈が見えることにより、紙に貼るのとは違う楽しみができることを説明。
- ・(大人に対しては)身近な木や木製品に注目、想像、話題にすることから「木育」を始められることを伝える。

参考経費

■材料費／1人当たり

- ・プラスチック板（1枚）
- ・木のベース（2ヶ）
- ・グルースティック
- ・ボンド、マスキングテープなど適宜
- ・・・・300円程度

参考となる活動のアレンジなど

■アクセサリ・ストラップづくりー身につけるものを作るー



紙やすりで削る



つるつるになったね



すべすべになった

■活動時間

1時間半程度

■準備等

- ・スギ輪切りのかげら
- ・紙やすり（荒目～細目各種）
- ・仕上げ用オイル（エゴマ油など）、ひも、ビーズなど

■実施

各種紙やすりで磨き、オイルで仕上げ、ヒモとビーズをつける。

■下駄づくりー遊べる（使える）ものを作るー



初めて使う鋸に緊張



上手に作れたよ

材料・道具

半加工済の台、歯、紙やすり、ひも、ネジ、鋸、ドライバなど

■活動時間

1時間半程度

■準備等

左を参照（材料費1人当たり800円程度）

■実施

- 鋸で板（台）を半分に切る
- 紙やすりで仕上げ
- 角材（歯）をネジでとめる
- ヒモを結ぶ

■森の動物づくりー身近なもので楽しく作るー



材料・道具

まつぼっくり、葉っぱ各種、紙・マジック、動眼、木工用ボンド、グルーガン等



どんな顔にしようかな・・・

■活動時間

1時間半程度

■準備等

左を参照

■実施

- ・まつぼっくりを体に見立て、動眼・口・葉っぱなどのひげや耳をつける。
- ・丸かんやたこ糸を付けてぶら下げたり、ペットボトルのフタにマスキングテープを貼り土台としてもよい。

モデル4【1～3の組み合わせ例】

保育園・幼稚園において、年間行事の中に「木育」を取り入れる場合の活動例です。

どのモデルにおいても、最初に「木製玩具での遊び体験」を実施することにより、「木」への興味のきっかけを作り次の活動へとつなげる内容としています。

※木製玩具での遊び体験：「遊び」、身近な植物観察：「観察」、木を使ったものづくり：「ものづくり」、とそれぞれ省略して記載しています。

遊び－観察－ものづくり

■活動条件など

- ・活動回数を多く設定できる
- ・園庭に樹木や植物が多い
- ・公園や神社が近くにあり行きやすい

■ねらいの設定例

同じ場所での植物観察を複数回行うことにより、季節の変化による植物などの生き物の変化を感じる。

■活動時期など

- ①【春】遊び
- ②【夏】観察
- ③【秋】観察
- ④【冬】ものづくり（保護者参観）

■ポイントなど

- ・ものづくりは季節を選ばないので、野外活動が難しい厳冬期などに当てるとよい。
- ・年度をまたぐ活動でもよい場合は、春にかけて葉が開く様子を観察するのも面白い。

遊び－ものづくり

■活動条件など

- ・活動回数、時期が限られる
- ・作りたいものが決まっている
- ・スタッフ確保、材料調達や指導者への謝礼などが準備可能

■ねらい モデル3と同様

■活動計画

- ①遊び【ものづくりの前に実施】
- ②ものづくり【いつでも】

■ポイントなど

- ・作るものや指導方法などを県民局等に相談しながら準備する。

遊び－観察－ものづくり

■活動条件など

- ・観察～ものづくりにつながる内容を1度の実施したい
- ・近くに適当な公園がないので園庭を活用
- ・1回の活動時間を長めにとれる

■ねらいの設定例

- ・生きている樹木に触れ、樹木から生まれる素材を使ってもものづくりを体験することにより、「木」を身近な生き物・素材であると感じる。

■活動時期など

- ①遊び【観察+ものづくりの前に実施】
- ②観察+ものづくり【冬以外】

■ポイントなど

- ・ものづくりは、園庭の葉っぱなどを活用する内容とする。

遊び－観察

■活動条件など

- ・活動回数、活動時期が限られる

■ねらい モデル2と同様

■活動時期

- ①遊び【植物の前に実施】
- ②観察【秋など】

■ポイントなど

- ・紅葉が始まる頃は、どんぐりやまつぼっくりを多く拾え、落葉により枝の形がはっきり見えるなど楽しい要素が多い（防寒対策はしっかり）。
- ・春の芽吹き、初夏の鮮やかな緑、積雪期には常緑の葉や静寂さなど季節により見られるものが変わる。

Ⅳ 活動を発展させていくために

木育は、木製玩具で遊ぶだけではなく、また、各活動モデルで紹介した例を実施すれば終わりではありません。

「木」や「森」に関することで、皆さんが興味を持ち楽しいと感じたことは、何でも「木育」となるのではないのでしょうか。

子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべながら、楽しい工夫にチャレンジしてみてください。

ほんの一例ですがヒントを御紹介しますので、皆さんの「木育」の参考にしてください。

●木育のヒント

■色の名前

日本の伝統色はいくつあるか知っていますか？なんと460種以上あります。緑でも赤でも微妙に違う色にそれぞれ名前がつけられているのです。森の中には様々な植物がありそれぞれの色を持っています。その葉っぱがなんという色か調べてみませんか。

■葉っぱや木の実をスケッチする

木の葉に触れて特徴を書き出すことで植物は様々な形や色などの特徴を持つことに気づきます。園庭にある木をもう一度よく見てみませんか。

■まつぼっくりのヒミツ

どこでも見ることができるまつぼっくり。雨の日は閉じて晴れた日に開くのに気づいていましたか。閉じたり開いたりする様子を観察したり、その仕組みを調べてみましょう。

■どんぐりで作ろう

小さい頃、ついついどんぐりを集めてしまう人は多かったのではないのでしょうか。顔を書いて動物や人形にみだてたり、コマやじろべえを作ったり、おままごとの材料にしたり、そのままでもかわいいどんぐりでいろいろなものを作ってみましょう。

皆さんへのお願い

皆さんが実施した木育の様子やこんな内容にチャレンジしましたといった情報をお知らせいただければ、今後の「木育」の普及に活用させていただきますので、ぜひ御協力をお願いします。

この手引書や「木育」の取組に関する御意見や御提案もお待ちしております。

【御意見等のあて先】

郵送：〒036-8345 弘前市大字蔵主町4

中南地域県民局地域農林水産部林業振興課

FAX：0172-32-8544

e-mail：ch-nosui@pref.aomori.lg.jp

お待ちしております



V 資料編

1 知ってほしい木育のこと

木育やこれまでの青森県の取組などに関する基礎的な知識です。もっと詳しく知りたい方は、参考資料を活用して調べるか、中南地域県民局にお問い合わせください。

(1) 「木育」が生まれた背景

皆さんは木製品に触れた時に「なんだか分からないけれどいい気分」になったことはありませんか。たぶん多くの人に共感していただけたと思います。

これは木材という素材の持つ良さの効果だけではなく、私達日本人の生活が、古くから木や森と密接に関わりその恩恵を受けてきたことが記憶のどこかにあるせいではないかと思います。

しかし、私達の生活様式はこの数十年で大きく変化し、効率や利便性が最優先された結果、木製品がプラスチックや石油製品に変わり、生活の中で「木」を感じる機会がとても少なくなりました。

その結果、木材や木材を生み出す森林に対する関心が薄れ、同時に、木を使う技術や文化が廃れていくということも危惧される状況となっています。

こうした状況を変えていくために、また、「木を子どもの頃から身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育てたい（北海道HPから）」という思いがこめられて、北海道で「木育」という言葉が生まれ、全国各地に広がっています。

(2) 木育に関連する県内での活動・取組について

中南地域県民局では、平成 26～27 年度において「わんどの木育」普及推進事業を実施し、「主に未就学児を対象」とする木育を実施しました。

青森県全体では、「木育」という言葉が生まれる前から行われてきた「植樹・育樹作業」、「木工教室」、「森林環境教育」などの取組により、小学生以上を対象に「木育」が実施されてきたと言えますので、「わんどの木育」の取組により、木育の対象年齢や活動内容の幅を広げることができたのではないかと考えます。

また、県内各地でも、「木の文化の大切さを伝えたい」という活動や「木を活かす活樹祭」などの取組も行われ始め、様々な分野・立場の方による「木育」が実施されているところです。

(3) 森林環境教育について

■「森林環境教育」とは

森林内での体験活動を通して、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深めることにより、森林と人とが共生する社会の実現に向けた取組を推進すること。

■指導者向けガイドブックについて

青森県林政課は、平成 17 年度に、森林環境教育指導者のための「あおりもり森林環境教育ガイドブック」を作成しました。

このガイドブックは、森林をフィールドとして体験活動を行うための手順や体験活動プログラムにより構成されており、主に小学生を対象とする内容となっています。

2 活動に使える木製玩具や絵本

乳幼児期の発達には、「多くの刺激から五感を発達させる段階」があります。この時期に、多様な刺激を与えることができる木製玩具で遊ぶことはとても重要です。

木製玩具の特徴である美しい色や木目、匂い、良い音、あたたかく心地のよい肌ざわりなどは、非常に多様な刺激であると同時に、良い玩具を定義する項目にそのままあてはまります。

ここでは、木製玩具での遊び体験に使用された玩具のうち、青森県産材で作られたものを御紹介します。

うづくり積み木

- ・木目を浮き上がらせる「うづくり」の技法により作製された青森スギの積み木です。
- ・色や木目の違い、手触り、香り、音を楽しめます。
- ・軽くて柔らかいスギだから崩れてぶつかっても痛くありません。



崩れる音だって
楽しい



色が違うよ



高く積み上げたり



秘密基地を作ったり



片付けもみんながします



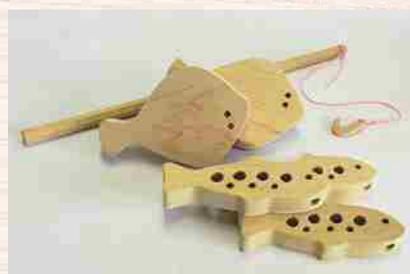
ゲタ
体全体で
バランスを
とって
乗ろう。



雪だるまの**けん玉**はちょっと難しいけど、**カップけん玉**は入りやすいよ。



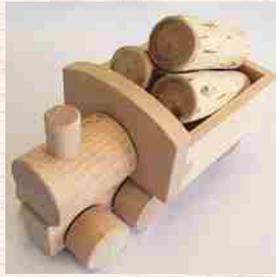
パズルカー ばらばらにしたら元通りにできるかな。



魚つり ヒバ製の魚を針でひっかけて釣ってみよう。



昔ながらの**コマ**はヒバ材で香りも楽しめます。



機関車 プナの機関車がリンゴやヒバ丸太を運びます。



どうぶつ積み木 14種類の鳥や獣たちが森から飛び出しました。バランス積み木や型はめて遊べます。

アートパネル 7種類の木で作った磁石付きのピースを使って、好きな字や絵を書いたり、グラデーションを楽しんだり、使い方は様々です。



色々な作品が生まれました

アーチ

アーチ（橋）を作る
スギのおもちや



他のおもちゃや絵本と
組み合わせて遊べます。



驚きで歓声があがります。

クーゲルバーン

大型クーゲルバーン。磁石がついたスロープなので、自分でコースを作り、音や動きを楽しめます。



ハンマートイ

音と感触が心地よく、いつまでも叩ける楽しさ。ヒバとサクラがあります。



森の積みき 25

25種類の木のできた積み木。色や手触り、重さの違いを感じられるかな。



木

24個の「木」で色々なアクロバットができますよ。

おすすめの絵本

■「わんどの木育」で使用した絵本



作：(ノルウェーの昔話)
絵：マーシャ・ブラウン

三びきのやぎの がらがらどん

三匹のやぎが橋を渡るお話しです。
橋を作るおもちゃ「アーチ」と組み合わせて読み聞かせできます。

【福音館書店】



作：征矢清
絵：林明子

はっぴのおうち

※大型絵本あり

さちが木の葉の家で雨やどりをしていると、カマキリ、チョウ、コガネムシも雨やどりにやってきて…。
雨の日に読みたい本です。

【福音館書店】

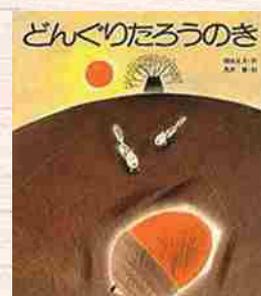


作：ジャニス・メイ・ユードリー
絵：マーク・シーモント

木はいいなあ

木がたくさんはえると森になり、森はいつもいきいきしている。秋になって葉っぱが落ちると・・・木のある生活のよさが描かれています。

【偕成社】



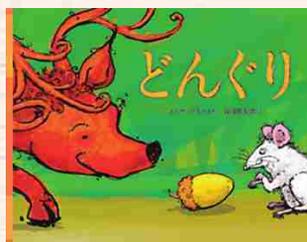
作：鶴見正夫
絵：黒井健

どんぐりたろうのき

※大型絵本あり

どんぐりたろうがこぼれおち、冬の寒さの中で眠り、やがてかしのきたろうとなって成長する物語です。
自然の移り変わりを感じられる本です。

【佼成出版社】



作：エドワード・ギブス
訳：谷川俊太郎

どんぐり

ちっちゃなきいろいどんぐりがひとつ、地面に落ちてころがった。いろんな動物たちが、「うーん、おいしそう！」どんぐりは「いまはたべないで」と・・・

【光村教育図書】



作・絵：片山健

きはなんにも いわないの

※復刻版

お父さんに「木になって」とおねだりした、すーくん。さっそく、お父さんの“木”で木登りに挑戦です。でも木登りがうまいかない・・・

【復刊ドットコム】

■その他のおすすめ絵本

題名	作・絵	出版社
大きな木	作・絵：シェル・シルヴァスタイン 訳：村上春樹	篠崎書林
おやつを作りにきてください	作・絵：ささきみお	(一社) 全国林業改良普及協会
命を大切に作る心を育む絵本Ⅱ はなちゃんとももちゃんのどんぐり	作：藤田睦子 絵：間山さとる	青森県
おおきく なあれ	作・絵：ささきみお	(一社) 全国林業改良普及協会
どうぞのいす	作：香山美子 絵：柿本幸造	ひさかたチャイルド
ヒッコリーのきのみ	作：香山美子 絵：柿本幸造	ひさかたチャイルド
びっくりまつぼっくり	作：多田多恵子 絵：堀川理万子	福音館書店
もりのえほん	安野光雅	福音館書店

3 知ってほしい木や森のこと

(1) 青森県の森林について

本県は森林面積が全国第9位の多様な樹種がバランスよく分布する森林県です。

岩木山、白神山地、下北半島など県内には景観的にも優れた森林が豊富に存在しています。これらの森林地帯は、林業生産のほか多くの人々に保健休養の場として利用されています。

昭和41年に県の木に指定されたヒバ（学名ヒノキアスナロ）は日本三大美林としても有名で、全国の蓄積の8割以上を青森県が占めています。

白神山地に代表されるブナは、全国でも有数の蓄積量を誇り、水源かん養などに大きな役割を果たしています。

木材生産の中心樹種であるスギは、全国第4位の人工林面積を有し、一層の需要拡大のため、さまざまな施策を展開しています。

南部地域の主要樹種の一つであるアカマツは梁などの建築用材として用いられます。

また、本県では、海からの強い風の影響から地域住民の生活を守るため、江戸時代初期から海岸防災林の造成が続けられており、現在津軽半島西海岸や下北半島東部には防風機能の高いクロマツ林が延々と続いています。

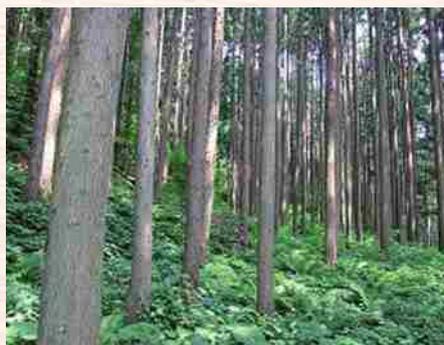
本県はこれらの豊富な資源を背景として、森林の有する多面的機能の発揮に向けた取組を進めています。



ヒバ林



ブナ林



スギ林



アカマツ林

(2) 森林の働き

森林には、木材をはじめ、きのこや山菜などの恵みをもたらしてくれる働きがあります。

青森県の豊かな水産資源も、きれいな水を育む森林の恵みです。

また、私たちの暮らしを土砂災害や雪崩などから守ってくれる働きもあります。

さらに、森林の美しい景観やきれいな空気は人の心を和ませ、身体を健やかにしてくれます。

(3) 木材の魅力

木材は、軽くて強い資材であることから、住宅の建築等に多く用いられてきました。

また、高い断熱性により木質化した室内は冬は暖かく夏は涼しく感じられること、調湿作用や抗菌作用があることなど多くの効果があります。

さらに、独特のぬくもりや弾性を持ち、音を適度に吸収し、目に有害な紫外線をよく吸収するなど、人に心地よい感覚を与える素材であることに加え、木の香りには、リフレッシュ効果や鎮静効果等があります。

(4) 身近な木を使うこと

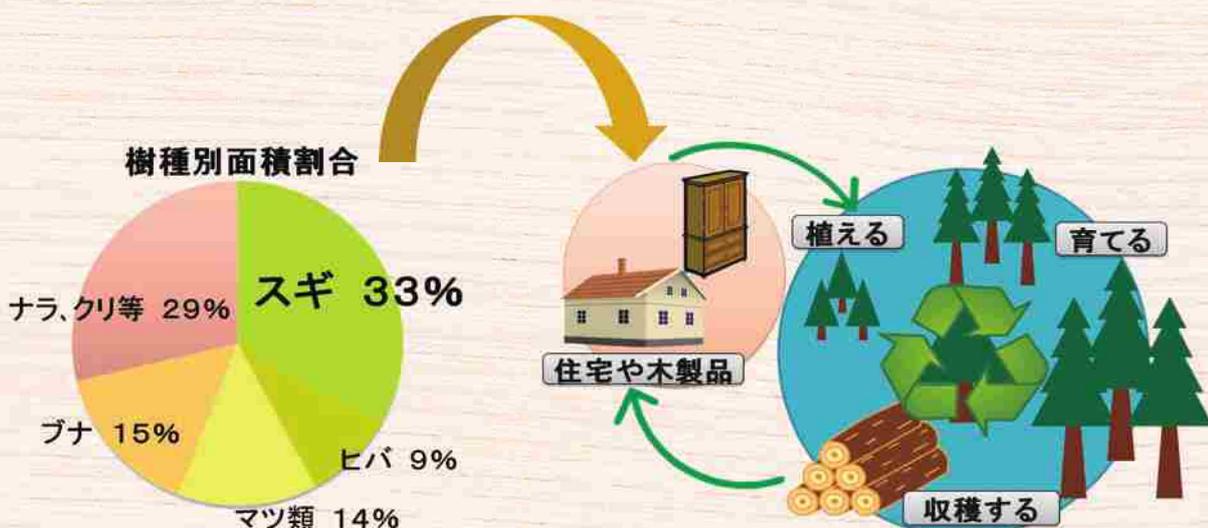
青森県は、特産のヒバをはじめスギ、アカマツ、ブナなどの豊富な木材資源（県産材）に恵まれています。県内で生産された木材のうち県内で使われているのは約半分で残りは県外に移出されています。

一方で、利用期を迎えている森林資源の割合は高い状況にあり、最近では、大型製材工場や木質資源の燃料等による利用増が見込まれることから、今後は、適切に森林整備を進めていくことが非常に重要です。県産材の活用はこうした森林の整備促進につながっています。

県産材を地元で使うことは、

- ①外国や他県産の木材を使うよりも輸送距離が短いため、輸送に伴うCO₂の排出量が抑えられ、地球温暖化防止に貢献します。
- ②森林の整備に必要なお金が地元で還元されるため、苗木を植えて、育てて、収穫するといった林業のサイクルがスムーズに循環し、水を蓄え、土砂崩れや洪水等の災害に強い健全な森林づくりが図られます。
- ③地元の林業の活性化は、関連する木材産業等に良い影響を与え、豊かで住みよい地域づくりにつながります。

植える、育てる、収穫する、使うというサイクル



4 木育活動を行っている施設・団体

中南管内で木育の指導や木育に関連する活動を行っている施設や団体を紹介します。

団体名	活動内容	連絡先等
特定非営利活動法人 弘前子どもコミュニティ・ピーぶる	・幼稚園・保育園、小学校PTA等での木育指導 ・木育広場開催	電話 0172-34-0171 弘前市大字一番町5 正阿弥ビル3F
弘前市駅前こどもの広場	・木育玩具・遊具設置 ・木育に関するイベント実施	電話 0172-35-0156 弘前市大字駅前町9-20
合同会社わらはんど	・木に関連するワークショップの開催	電話 0172-55-7173 弘前市大字千年4-9-24
わにもっこ企業組合	・木工体験指導 ・木工ワークショップ（木工体験+使う樹木や自然・文化についての知識を深める体験）	電話 0172-48-5526 大鰐町大字早瀬野字坂本72
あじゃら工房	・木工体験指導	電話 0172-48-3902 大鰐町大字宿川原字山下48-1
平賀木工クラブ	・木工体験指導	電話 0172-44-4142 平川市柏木町柳田10-14
青森グッド・トイ委員会	・グッド・トイに関するイベントの開催	電話 090-6197-8644 (会長 白坂康俊)
岩木山桜会議	・岩木山周辺での森林ボランティア活動	電話 090-2273-9011(三浦) 弘前市御幸町5-9 カフェホートン内
こけしの森林づくり実行委員会	・こけしの原木となる木の植樹・育樹活動	電話 0172-52-2111 黒石市大字市ノ町11-1 (事務局：黒石市農林課内)
白神山地ビジターセンター	・白神山地等での自然体験活動 ・木工クラフト体験等実施	電話 0172-85-2810 西目屋村大字田代字神田61-1
東北森林管理局 津軽森林管理署 【緑づくり支援窓口】	・森林・林業について理解を深めるために相談できる窓口	電話 0172-27-2800 弘前市豊田2-2-4
東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所	・白神山地等での自然体験活動	電話 0172-85-2622 西目屋村大字田代字神田61-1



5 参考図書等

名称・資料名等	作成者等
青森県の森林・林業（※1）	青森県林政課
森で遊ぼう、森で学ぼう！体験活動ファイル －あおもり森林環境教育ガイドブック－（※1）	青森県林政課
ウェブサイト『青森県の森林・林業』 http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/aomorisinringyo.html 青森県の森林・林業全般に関する内容。上記※1をダウンロードできます。	
木育BOOK	弘前市子育て支援課
各年度版 森林・林業白書	林野庁
もりのなかでこどもはかがやく 乳児－幼児のための森林環境教育ガイドブック（※2）	北海道森林管理局
ウェブサイト『北海道森林管理局』 http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html サイト内「森林（もり）の図書館」で上記※2をダウンロードできます。	
木育達人（マイスター）入門（※3）	北海道
木育事例集（※3）	北海道水産林務部
木が育った森を感じる～木育事例集2～（※3）	北海道
木育のお話しをしてみよう～木育事例集3～（※3）	北海道林業・木材産業対策協議会
ウェブサイト『北海道の木育』 http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sky/mokuiku/ 上記※3をダウンロードできます。	
木育の本	著者：煙山泰子・西川栄明 （北海道新聞社）
木育達人のための木育活動ガイド（※4）	NPO法人ねおす
ウェブサイト『木育ファミリー』 http://www.mokuiku.net/ 上記※4をダウンロードできます。	
木育のいっぽ（木育読本）（※5）	岐阜県
ウェブサイト『岐阜県』→「木育のいっぽ」 http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/shinrin/kyoiku-kenkyu/11513/index_10330.html 上記※5をダウンロードできます。	
木育ノート 木のこと学ぼう！友達になろう！	（財）日本木材総合情報センター
わたしたちと木の物語	静岡県木材共同組合連合会
木育インストラクター・テキスト	（特活）活木活木森ネットワーク
木材の学習	
子どものための木工具の使い方	
赤ちゃんからはじめる木のある暮らし	著者：東京おもちゃ美術館 （幻冬舎エデュケーション）
幼児の心とからだを育むはじめての木育	著者：松井勅尚（黎明書房）
0～3歳 木育おもちゃで安心子育て	著者：多田千尋（黎明書房）
3～5歳 木育おもちゃで安心子育て	

6 「わんどの木育」普及推進事業(平成26～27年度県民局事業)について

■目指す「木育」

森林資源に恵まれた本県において、子どもの頃から木を取り入れた生活の中で、木と森に親しみ、人と、木や森とのかかわり、森林づくりの大切さを考えられる豊かな心を育むこと。

■取組

「未就学児を対象に、県産材のおもちゃなどとのふれあいを通じて木に親しみ、木の良さや利用の意義を学んでもらうための活動」を中心に、「木のぬくもりでゆたかな心」をキャッチフレーズとして、木育モデル園の活動や「木育」について普及啓発する木育広場などを実施しました。

取組を始めた背景には、駅前子どもの広場に木製玩具・遊具が常設されたことや木育活動を熱心に行っているNPO法人の存在があったことから、事業の目的である「県産材の利用促進」を図りながら、保育・子育て支援関係者と連携をとって進めてきました。

■「わんどの木育」普及推進委員会について

事業実施に当たり、「わんどの木育」普及推進委員会の各委員からの意見をいただきながら内容を検討しました。

(委員名簿)

氏名	所属	氏名	所属
増田 貴人	弘前大学教育学部	木村 和彦	弘前地方森林組合
清野 真由美	(特活)弘前子どもコミュニティ・ ぴーぶる	齊藤 誠	津軽木材流通センター
		谷口 哲郎	(特活)岩木山自然学校
今 由香理	弘前大学教育学部附属幼稚園	後藤 千登世	弘前市子育て支援課
三浦 テツ	城東保育園	菅野 昌子	
山口 優美	中郷保育園	戸田 しのぶ	弘前市駅前子どもの広場
木村 崇之	合同会社わらはんど	天内 純子	
山内 将才	わにもっこ企業組合	西谷 真一郎	中南地域県民局地域農林水産部

【順不同、所属は委員就任時】

「木製玩具を活用した木育」については一定の評価をいただき、県内での波及効果も期待されるようですが、一方では、未就学児から児童生徒、大人への「つながり」を意識した活動が非常に重要であるとの意見もいただいています。

今後、木育を実施される方においては、この手引書を活用していただくほか、「あおりもり森林環境教育ガイドブック (P.24 参照)」などの資料も参考にいただければと思います。



木のぬくもりで豊かな心



わんどの「木育」

～初めて「木育」にとりくむ皆さんへ～

子どもたちのための「木育」手引書

平成28年3月

発行／青森県中南地域県民局地域農林水産部

〒036-8345 青森県弘前市大字蔵主町4

電話 0172-33-3857

FAX 0172-32-8544